

目次

はじめに

1. 背景と目的	1
2. 方法	4
2-1 研究の概要	4
2-2 研究の経過	5
(1) 平成 29・30 年改訂学習指導要領各教科編に示されている配慮事項	5
(2) 過去の実践・文献等の整理	6
(3) 研究協力校等との協議	7
(4) 研究協議会の開催	8
3. 「教科指導上の配慮」の検討に必要な観点	9
(1) どの子にもわかりやすい授業	9
(2) 互いに認め合い、支え合える学級集団	13
(3) 多様な教育的ニーズのある子供の実態把握	14
(4) 合理的配慮とその基礎となる環境整備	15
(5) 集団全体への指導・支援と個に応じた指導・支援	17
(6) 子供の思いや願いの受け止め	19
4. 「多様な教育的ニーズのある子供の教科指導上の配慮」の検討	21
(1) 研究協力校、研究協力機関との協議	21
(2) 研究チームでの整理・検討	24
(3) 参考となる取組	27
5. 「多様な教育的ニーズのある子供の教科指導上の個に応じた配慮」の考え方	29
(1) 「教科指導上の個に応じた配慮」を考える流れ	29
(2) 「教科指導上の個に応じた配慮」の例	31
小学校〔国語〕	32
小学校〔社会〕	38
小学校〔算数〕	47
小学校〔理科〕	52
小学校〔外国語活動〕	56
中学校・高等学校〔国語〕	60
中学校〔社会〕・高等学校〔地理歴史・公民〕	65
中学校・高等学校〔数学〕	74
中学校・高等学校〔理科〕	78
中学校・高等学校〔外国語〕	82
(3) 学校での実践例	87
6. 子供の思いや願いを踏まえた実践	90
(1) 子供との対話を通して「教科指導上の個に応じた配慮」を検討（小学校）	90
(2) 子供が担任の指導や支援に関わる実践	92

7. 考察	94
(1) 通常の学級における「教科指導上の配慮」について	94
(2) 「教科指導上の個に応じた配慮」を考えるためには	97
(3) 「教科指導上の個に応じた配慮」を充実させるために	97
8. 参考資料	99
9. 研究体制	100
おわりに	101